

# いのちを守る赤十字 ～日赤活動資金へご協力をお願いします～

日本赤十字社富士見町分区 富士見町赤十字奉仕団（住民福祉課社会福祉係 ☎62-9144）

みなさんは「赤十字」と聞くと、どのようなことを思い浮かべるでしょうか。

「義援金を集めている」「赤十字の病院がある」など名前は知っているけれど、どのような活動をしているのかは知らないという方もいらっしゃるのではないのでしょうか。

## 救うことを、つづける ～赤十字の活動～

災害現場における災害救護活動をはじめ、平常時には救援物資の備蓄、救急法普及活動、赤十字奉仕団によるボランティア活動、国際活動や看護師養成など、「いのちを守る」ための活動をしています。

災害救援活動

救急法等普及活動

青少年赤十字活動

赤十字奉仕団活動

国際活動

看護師養成

赤十字血液センター

赤十字病院

赤十字乳児院



日本赤十字社  
人間を救うのは、人間だ。  
Our world. Your move.



赤十字活動は、みなさまからお寄せいただく寄付金によって支えられています。

今年度も各区の方々のご協力のもと、日赤活動資金の募集活動を行っています。赤十字の活動にご理解いただき、みなさまの温かいご支援、ご協力をお願いいたします。

# 子育てはたくさんの笑顔とたくさんの手で ～子どもの場所から～

NPO法人ふじみ子育てネットワーク ☎62-5505

## リスク(危険性)の捉え方

先日、NPO法人ふじみ子育てネットワークが運営する事業、「子育てひろばAiAi」「野外保育森のいえ“ぼっち”」「小学校放課後のあそびば」の全スタッフを対象に、リスクマネジメント研修を実施しました。子どもたちが安全に安心して過ごすことができる場づくりについて、「リスク」を本当の意味で理解し考えるためです。研修後、各事業現場で、スタッフがモヤモヤするリスクをリストアップし、今後は、そのひとつ一つについて丁寧にリスクを評価していきます。

子どもたちが100パーセント安全に過ごせる唯一の方法は、何も無い部屋でじっとしているように言うことです。でも、それでは子どもは育ちません。楽しくありません。子どもの日常生活を取り巻く環境にはリスクは必ず存在し、子どもの生きる力を育てるためには、リスクのある環境で、様々な体験を通して自分の身を守るための危険察知能力を身につけることが大切です。ここなら、これくらいなら大丈夫、これ以上はやめておこう、と自分で判断することができないと、どんなに安全を意識した環境でも、子どもは思わぬところで大怪我をしてしまいます。

子どもに関わる大人は、少しでもリスクがあるものは全て排除するのではなく、大人が何かしらの対処をすれば軽減するもの、子どもが自分自身で意識することで回避できるもの、小さな怪我をする可能性はあるがそれ以上に子どもの生きる力を育むもの、などひとつひとつ検討し、その対処法を子どもと共有し年齢に応じた方法で注意喚起をすることで、事故や怪我を防ぐことが大切です。その積み重ねにより、子どもは、自分の手に負える程度の危険か、手に負えない危険かを判断する力を養います。



よく擦り傷、切り傷をたくさん作って育った子は、大きな怪我はしない、小さな頃に小さな怪我をしないように守られすぎた子は、大きくなった時に大怪我をする、と言われるのは、そういうところから来ているのでしょうか。もちろん怪我はしないほうがいいですが、必要以上にリスクを排除しすぎて、子どもの育つ力を奪うようなことにならないよう、子どもが自分で考え自分の身を守るができるよう、丁寧にリスクマネジメントに取り組みます。



▲どんな場所、どんな行動が危ないかよく知って遊ぶことで楽しさが倍増します。